

相談総数

5,536事業者（メーカー・卸業者：566、医療機関：4,970）

※一斉点検等や窓口により情報提供等を受け付けた中から相談を受けたものを対象としている。

※医療機関からの相談（4,970事業者）のうち、定点観測：127事業者、EMIS：791事業者、全医療機関からの情報提供窓口：4,052事業者

（前回との差：+2,580事業者（メーカー・卸業者：+211、医療機関：+2,369））

対応状況



品目単位で精査

※例えば約2,200の医療機関から相談のあった同種の手袋の供給に関するものは1つの品目とカウントするなど、品目単位で精査の上、その品目数を計上。

		品目数	（前回との差）
①安定供給に影響があると判断された品目		58	+24
うち	②対応検討中の品目	43	+19
	③解決済みの品目	15	+5

※医薬品・医療機器・医療物資等は、石油製品（中東産を含む）を原料としてアジア諸国にて生産されるものが一定あるところ、②の中にも、透析用チューブや手術時の廃液容器など、こうした製品について、ただちに供給が滞る状況ではないが、中長期的な安定供給に影響があると判断され、対応検討中となっているものがある。

<進捗状況>

③：新たに、血液検査分析装置の洗浄剤、鼻炎治療薬等の製造設備用のA重油、消毒液の容器、歯科用注射針のコーティング剤、透析装置洗浄剤の容器の供給不安を早急に解決済み。

解決済みの品目 （累計）

* 下線部：新たに解決済みとなった品目

- ・小児カテーテルの滅菌用のA重油
- ・効率的に薬剤投与が行える注射器のシリンジ（筒の部分）の滅菌用のA重油
- ・心臓を補助する特殊なカテーテルの滅菌用ガス
- ・医療機器の滅菌等の酸化工チレンガス
- ・医療機関の滅菌に必要なA重油
- ・医療機関で用いる消毒液（イソプロパノール）
- ・人工透析用の血液浄化器（ダイアライザー）の製造用溶剤
- ・人工透析用の注射針の滅菌用ガス
- ・献血バッグの製造用溶剤
- ・採血管をまとめる袋
- ・血液検査分析装置の洗浄剤
- ・鼻炎治療薬等の製造設備用のA重油
- ・消毒液の容器
- ・歯科用注射針のコーティング剤
- ・透析装置洗浄剤の容器

足下の主な対応

- ・4/16（木）に、医療用手袋の備蓄放出を決定。確保が困難となっている医療機関向けに、まずは5000万枚を放出することとし、今後の供給状況を踏まえ、必要に応じ追加で放出していく。5月からの配送に向け速やかに手続きを進める。
- ・4/20（月）時点で、802のメーカー・卸業者から一斉調査に対する回答を収集。未回答事業者を含め、引き続き積極的に回答を働きかけ。 1

中東情勢に関する透析資材の供給確保について

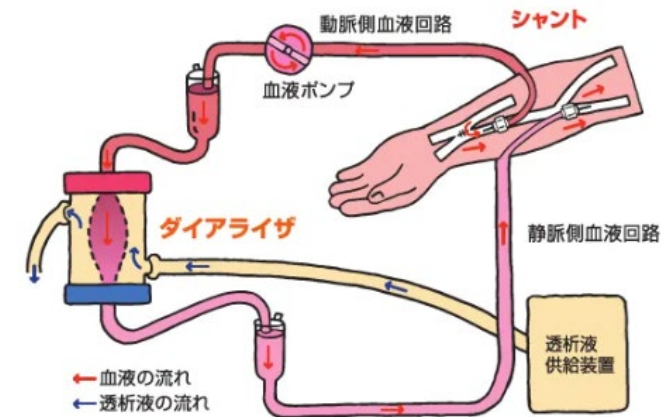
- 透析資材のうち、これまで寄せられた血液浄化器（ダイライザー）、注射針、透析装置洗浄剤に係る供給不安を解消。あわせて、透析用チューブの製造販売業者の供給・在庫量について、**9月末まで**の全国の必要量に対する十分な供給を確保。これにより、透析資材全般について、当面の安定供給を確保。
- 引き続き、透析資材の供給が途切れないよう、様々な取組を組み合わせながら、政府を挙げて万全を期していく。

供給確保の取組

品目	対応方針
A社の血液浄化器（ダイライザー）の製造用溶剤	・ 供給元企業に対する優先供給を働きかけ
B社の注射針の滅菌用ガス	
C社の透析装置洗浄剤の容器	・ 代替品の確保
D社の透析チューブ（回路）の樹脂材料	・ 供給元企業に対する優先供給を働きかけ ・ 原材料の確保やメーカーによる増産

透析資材への対応方針

- 製造販売業者各社等の取組により、現在の在庫や、原材料の確保、増産の実施等の状況を踏まえると、透析のチューブについても、少なくとも**9月末までの全国の必要量に対する十分な供給を確保**できている。
- 中東情勢の先行きは、未だ予断を許さない状況にあることから、物資の需給動向を注視するとともに、**10月以降も安定的に供給できる体制を速やかに確保**するため、経産省と連携し、透析のチューブを始めとした透析資材について、サプライチェーンを特定し、**POWER Asia**（アジア・エネルギー・資源供給力強化パートナーシップ）**などの枠組みも活用しつつ**、供給元企業に対する優先供給の働きかけや、海外工場における原材料確保の取組を推進。
- また、業界団体とも連携して、事業者間での情報交換など**相互協力が可能な枠組みの構築**に取り組んでおり、事業者の協力が円滑に進むよう整理を進めている。
- 国内の透析医療を途切れることなく継続していくため、今後も、あらゆる手段を適切に組み合わせることにより、透析資材の供給確保に取り組んでいく。



(※) 一般社団法人日本腎臓学会「腎不全 治療選択とその実際 (2025年)」